

株式会社 中村屋

東証スタンダード

2 2 0 4



2026年3月期第2四半期（中間期）決算説明会

2025年11月10日

2026年3月期第2四半期（中間期）決算の総括

- 売上高は猛暑の影響もあり未達ながらも、営業利益は期初予想よりも赤字幅縮小
- 中華まんの春夏需要喚起や生産の平準化効果により、費用や労務費の改善がすすむ

2026年3月期通期見通し

- 基幹システムの改修費用や工場再編による期間短縮償却等の一過性の費用計上で、減益を予想
- 期初計画見直しはせず、売上高37,700百万円、営業利益660百万円の達成を目指す

企業価値向上に向けた成長戦略・進捗状況

- 中華まんの春夏需要創造や販路拡大、調理食品の拡販、デイリー菓子の定番化などの成長戦略の具体化が進む
- 工場再編による生産効率化も加わり、中期経営計画（2028年3月期計画：売上高410億円、営業利益14億円）達成に向けた施策を着実に実施

1. 2026年3月期第2四半期（中間期）決算概要
2. 2026年3月期通期見通し
3. 企業価値向上に向けた成長戦略・進捗状況について

2026年3月期第2四半期（中間期）決算概要

新宿 中村屋

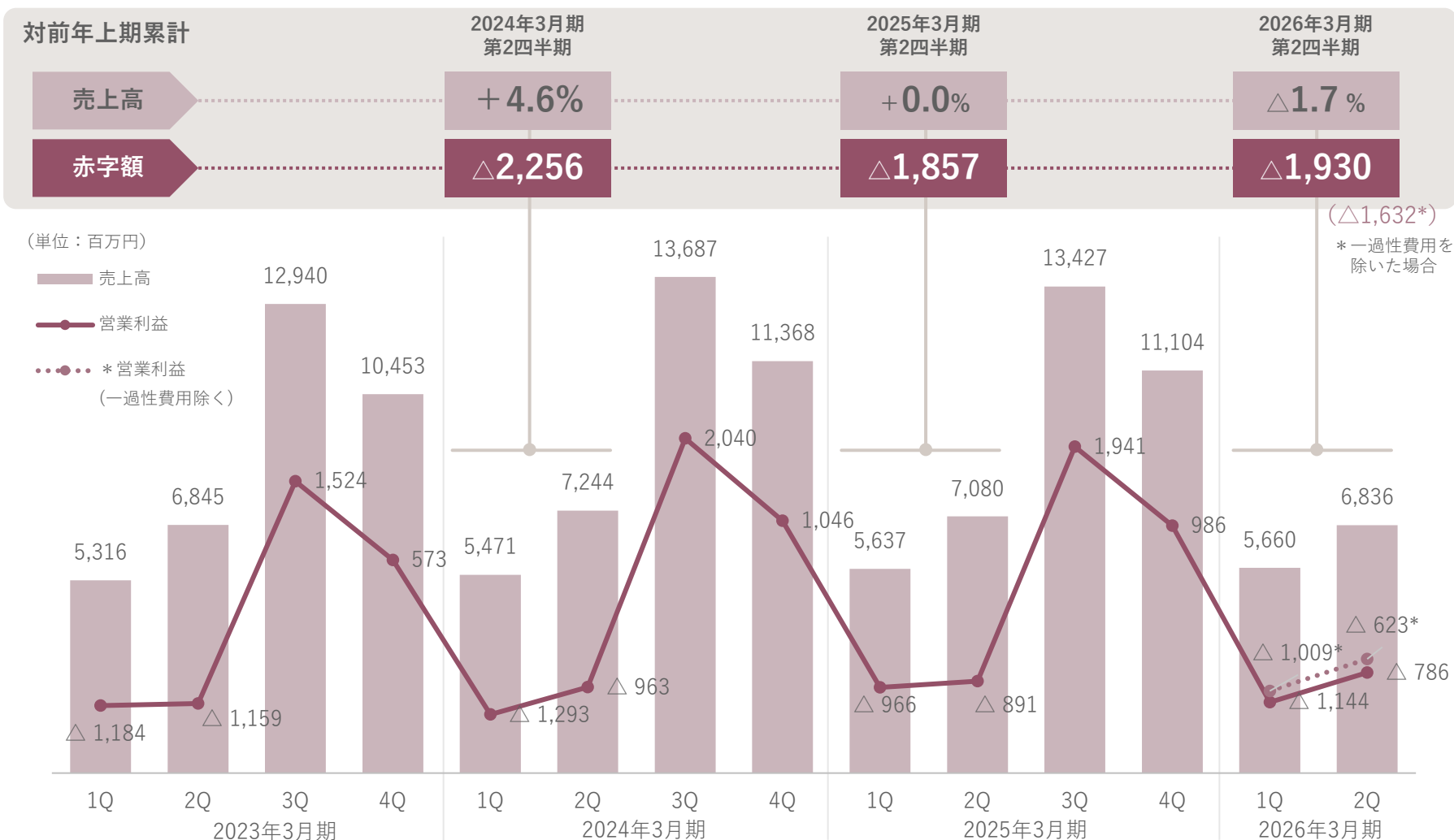
変わらない「おいしい」を、いつもあたらしく。

- 売上高は商品の絞り込みや猛暑の影響をうけて減収、対期初計画比でも未達
- 営業利益は生産の平準化対応による労務費関連費用等の抑制で、赤字ながらも期初計画を上回る

(単位：百万円)			2025年3月期 第2四半期	売上高比率 (%)	2026年3月期 第2四半期	売上高比率 (%)	前年同期比 (%)	期初計画 第2四半期 (5月15日公表)
売上高			12,717	100.0	12,496	100	△1.7%	12,750
売上総利益			3,653	28.7	3,552	28.4	△2.8%	—
販売費及び一般管理費			5,510	43.3	5,482	43.9	△0.5%	—
営業利益			△1,857	—	△1,930	—	—	△2,240
経常利益			△1,772	—	△1,802	—	—	△2,150
当期純利益			△1,223	—	△1,327	—	—	△1,510

四半期決算の推移

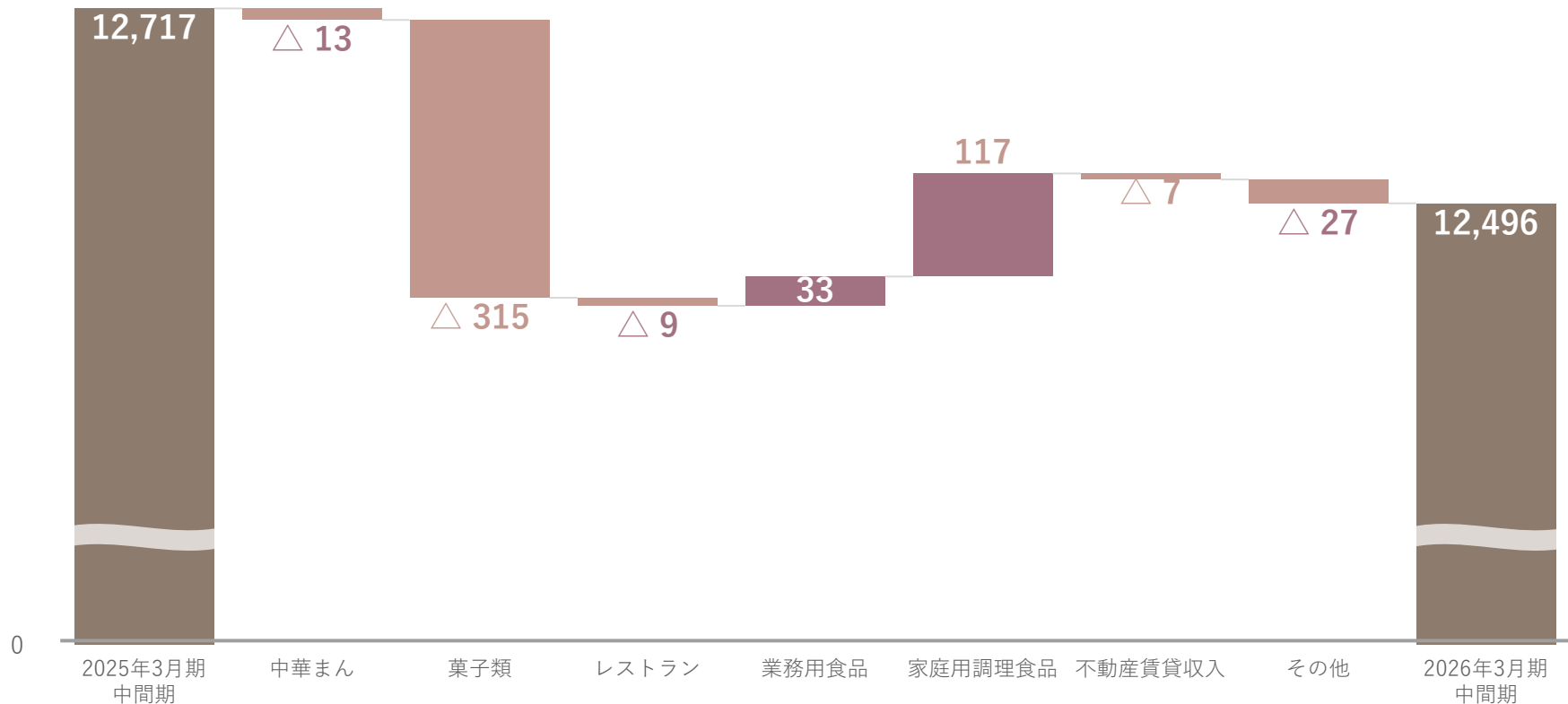
- 中華まんの春夏需要の創造や菓子ギフトのカジュアル化による年間の平準化を加速度をあげて進める
- 今上期は一過性費用の発生により赤字幅広がったものの、引き続き上期の赤字幅の縮小が着実に進む



売上高増減要因分析（前年同期比）

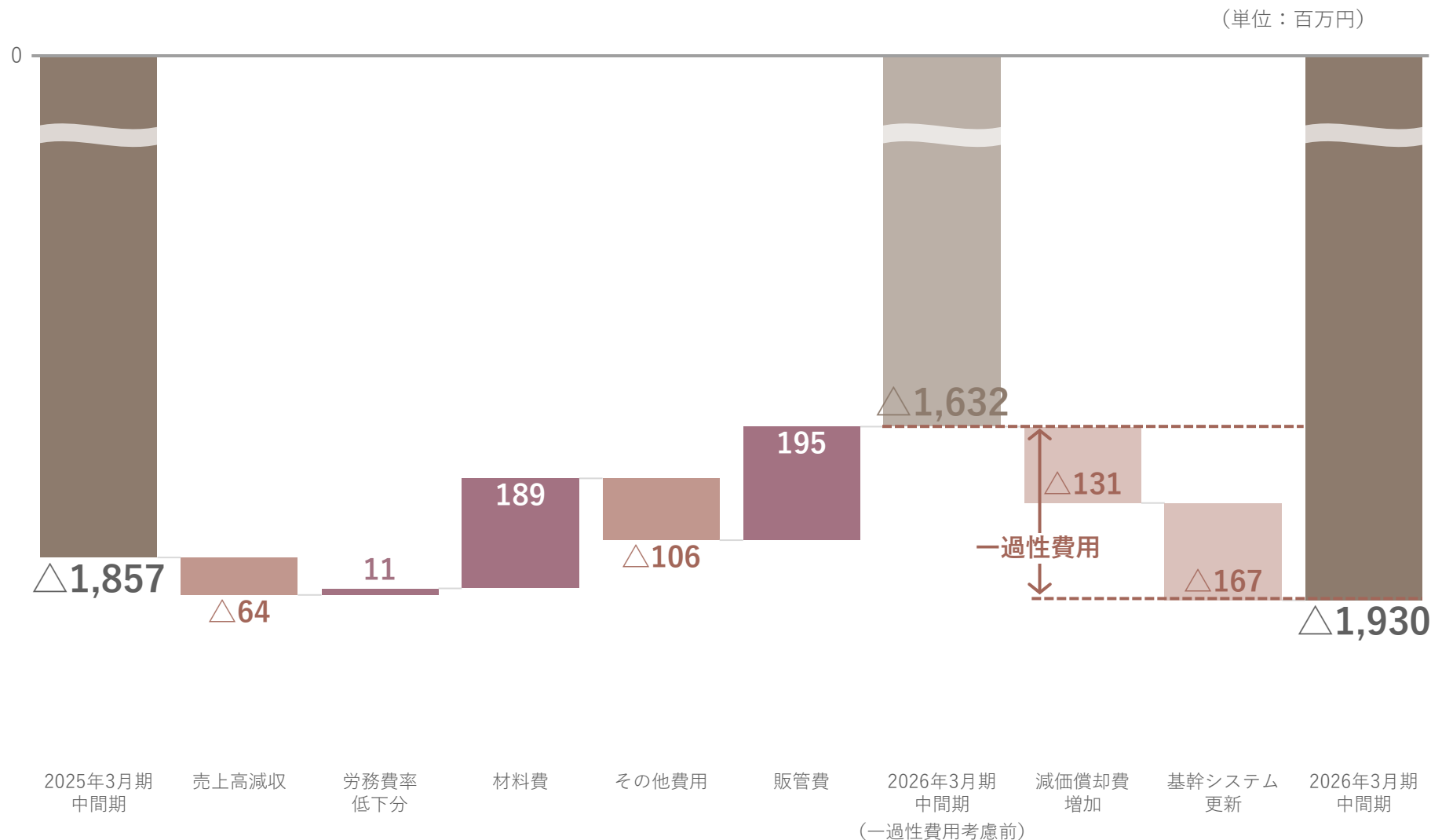
- 商品の絞り込み等により菓子事業はマイナスとなったものの、食品事業は、業務用食品、家庭用食品の商品開発を積極化したことにより売上高を牽引

（単位：百万円）



営業利益増減要因分析（前年同期比）

- 中華まんの年中商品に向けた取り組みや生産の平準化対応による効率化の推進やコスト削減による販管費及び労務費改善で、一過性費用除くと上期の営業赤字は改善



事業別の売上高・セグメント利益

- 菓子事業は、猛暑の影響もあり中華まんの販売の伸び悩みや商品の絞り込みにより減収減益
- 食品事業は、家庭用調理食品が牽引し増収したが、原材料価格高騰が響き減益
- 不動産賃貸事業は、商業ビルは満室であるが、一部店舗の賃料改定により減収減益

(単位：百万円)		2025年3月期 第2四半期	2026年3月期 第2四半期	前年同期比	前年同期比伸び率 (%)
菓 子	売上高	7,546	7,187	△360	△4.8
	セグメント利益 (利益率%)	△1,234 (-)	△1,242 (-)	△8	-
食 品	売上高	4,704	4,850	+146	+3.1
	セグメント利益 (利益率%)	326 (6.9)	317 (6.5)	△9	△2.8
不動産賃貸	売上高	467	460	△7	△1.5
	セグメント利益 (利益率%)	243 (52.0)	226 (49.1)	△17	△7.1

- 生産平準化による在庫増や工場再編による有形固定資産増で資産合計が増加
- 長期前受収益、短期借入金増により負債が増加したが自己資本比率は56.6%と5割を維持

■ 資産の部

(単位：百万円)	2026年3月期 第2四半期	2025年 3月期末比増減
流動資産	11,462	+259
売掛金	3,846	△523
商品及び製品 仕掛品 原材料及び貯蔵品	5,100	+1,459
その他流動資産	2,516	△677
固定資産	34,827	+2,521
有形固定資産	25,435	+1,059
投資その他の資産	8,921	+1,246
資産合計	46,289	+2,780

■ 負債・純資産の部

(単位：百万円)	2026年3月期 第2四半期	2025年 3月期末比増減
流動負債	5,332	+857
短期借入金	400	+400
未払金	1,547	+189
その他流動負債	3,385	+268
固定負債	14,782	+2,787
長期前受収益	9,856	+3,317
純資産	26,174	△864
株主資本	22,511	△1,734
負債純資産合計	46,289	+2,780

キャッシュ・フローの状況

- 仕入れ債務増加により、営業キャッシュフローは増加
- 賃借地の取得によりフリーキャッシュフローはマイナス

(単位：百万円)	2025年3月期 第2四半期	2026年3月期 第2四半期	増減	主な要因
現金及び現金同等物の期首残高	1,137	2,616	+1,479	
営業活動によるキャッシュフロー	587	1,207	+620	・ 仕入れ債務の増加
投資活動によるキャッシュフロー	△560	△2,056	△1,496	・ 賃借地の取得
フリーキャッシュフロー	28	△848	△876	
財務活動によるキャッシュフロー	8	△51	△59	・ 配当金支払いによるもの
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,172	1,717	+544	

2026年3月期通期見通し

新宿 中村屋

変わらない「おいしい」を、いつもあたらしく。

- 中間期利益は期初予想は上回って推移したものの、原材料費上昇等を鑑み、期初予想は変更なし
- 基幹システム改修費用や工場再編による期間短縮償却等の一過性費用（約5.5億円）の計上で減益へ

採算の悪化した商品・販路や収益化への道筋が見込めない商品は、
聖域を設けずにゼロベースで見直しを実施

- 商品や販売ルート重点化による減収
- 新基幹システム導入や工場再編に伴う期間短縮償却などの一過性費用計上を織り込む
- 一方で、年後半の価格改定の効果や新規ビジネスの影響は織り込まず

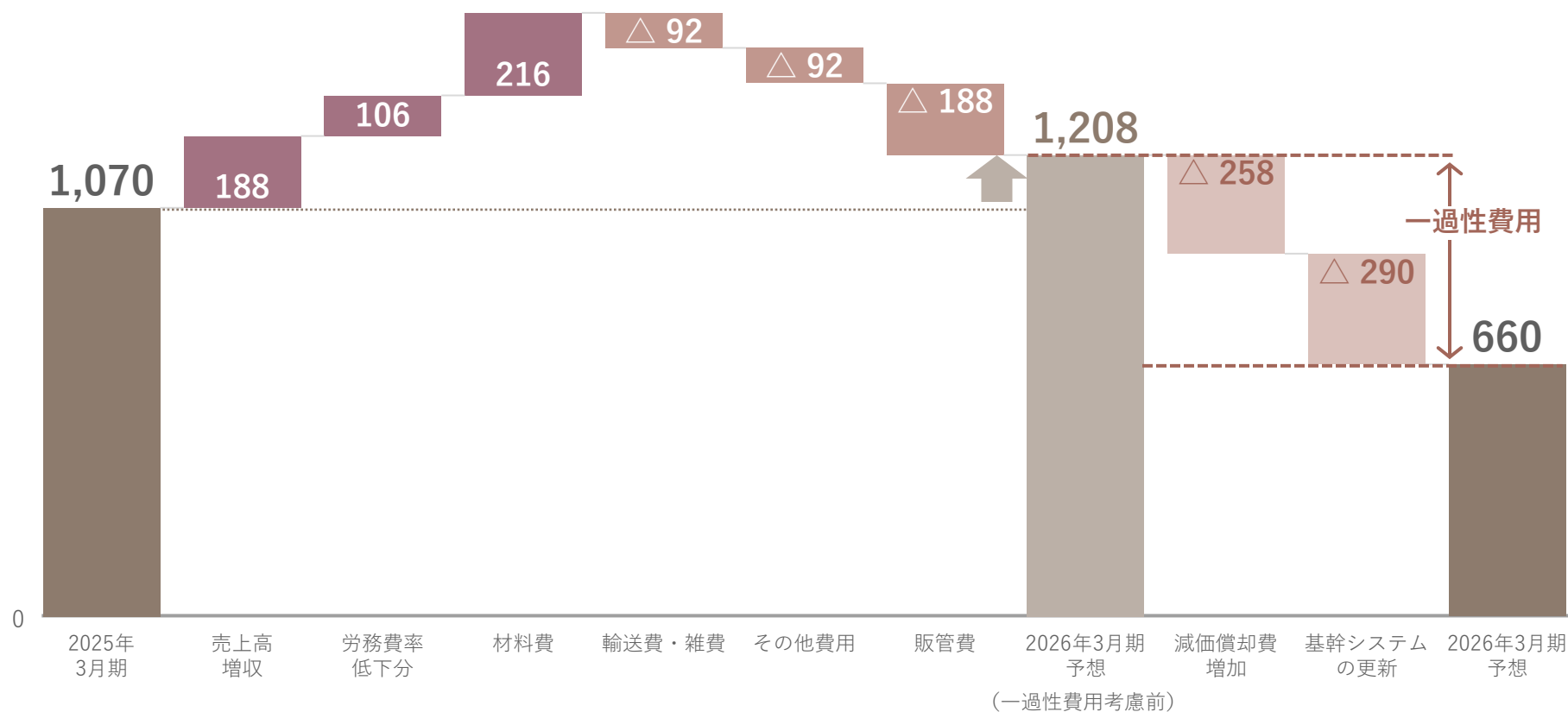
(単位：百万円)	2026年3月期予想	構成比 (%)	前年比 (%)	金額差異 (対前年比)
売上高	37,700	100.0	+1.2	+452
営業利益	660	1.8	△38.3	△410
経常利益	860	2.3	△32.7	△417
当期純利益	520	1.4	△41.2	△365

営業利益増減要因分析（予想）

■ 営業利益は、神奈川工場一部閉鎖に伴う固定資産の耐用年数の短縮、基幹システムの更新の影響（約5.5億円のマイナス）等もあり、減益を予想

■ ただし一過性の費用であるため来期以降の影響はなく、特殊要因を除くと増益基調継続

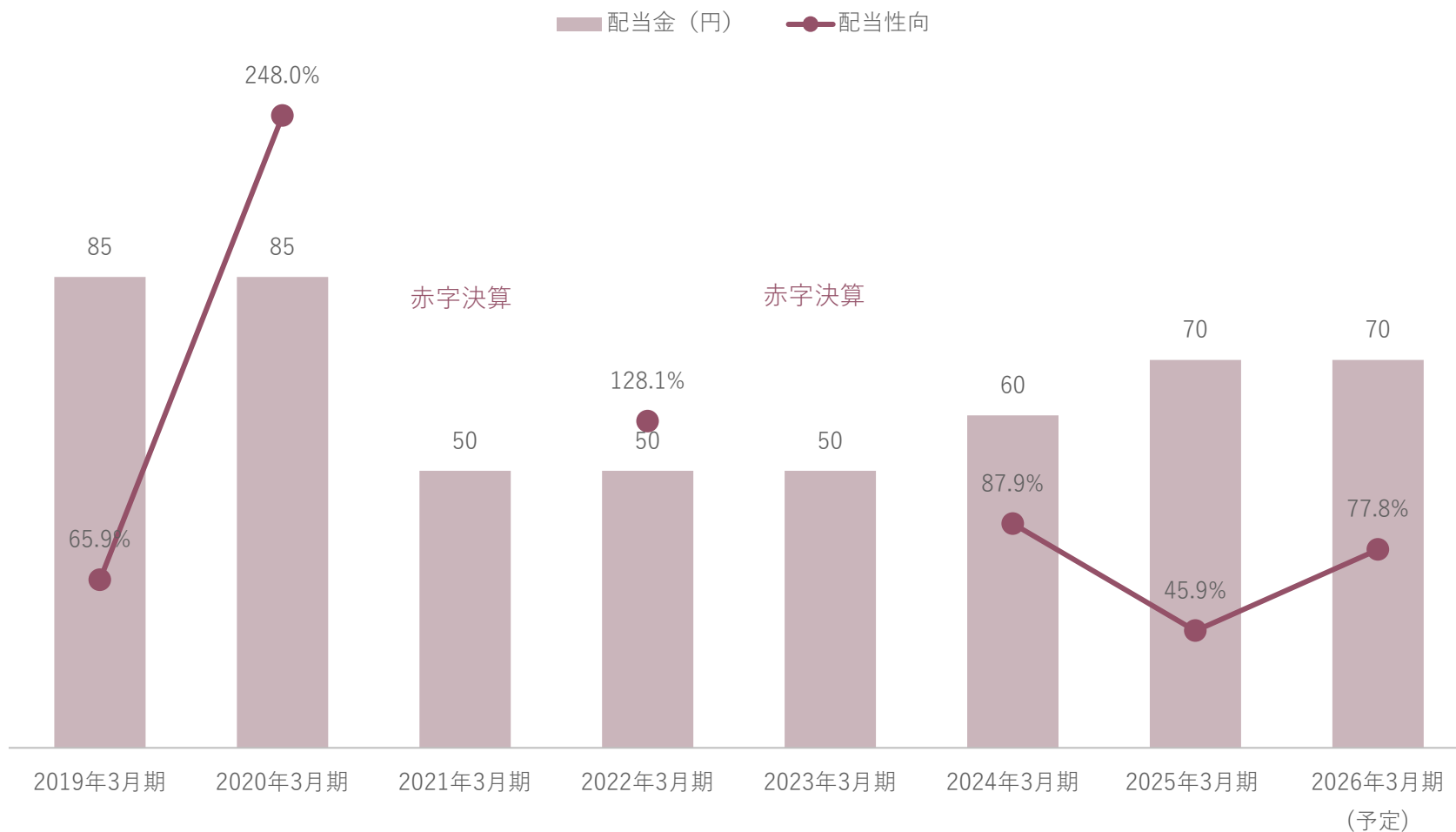
（単位：百万円）



配当・株主還元策

■ 株主に対して長期にわたり安定的かつ継続的な配当を重視

■ 2025年3月期に続き、2026年3月期は70円を予定



企業価値向上に向けた成長戦略・進捗状況について

新宿 中村屋

変わらない「おいしい」を、いつもあたらしく。

Ⅰ 春夏需要創造に寄与する商品を提供

Ⅱ 季節限定の商品を発売、年間を通じて中華まんの販売を実施

春夏需要喚起、新しい顧客層獲得のための取組み ①期間限定商品

2025年

5月～7月

辛肉まん



7月～8月

てのひらまん



11月～12月

(予定)

チーズ肉まん



2026年

春/夏



限定商品
開発継続中

春夏需要喚起、新しい顧客層獲得のための取組み ②販売促進キャンペーン

2025年4月1日～7月31日



中華まん6コ入シリーズ
売上高

16%
アップ

2024年4月1日～7月31日 2025年4月1日～7月31日

継続実施

2025年8月1日～2026年1月31日
実施予定

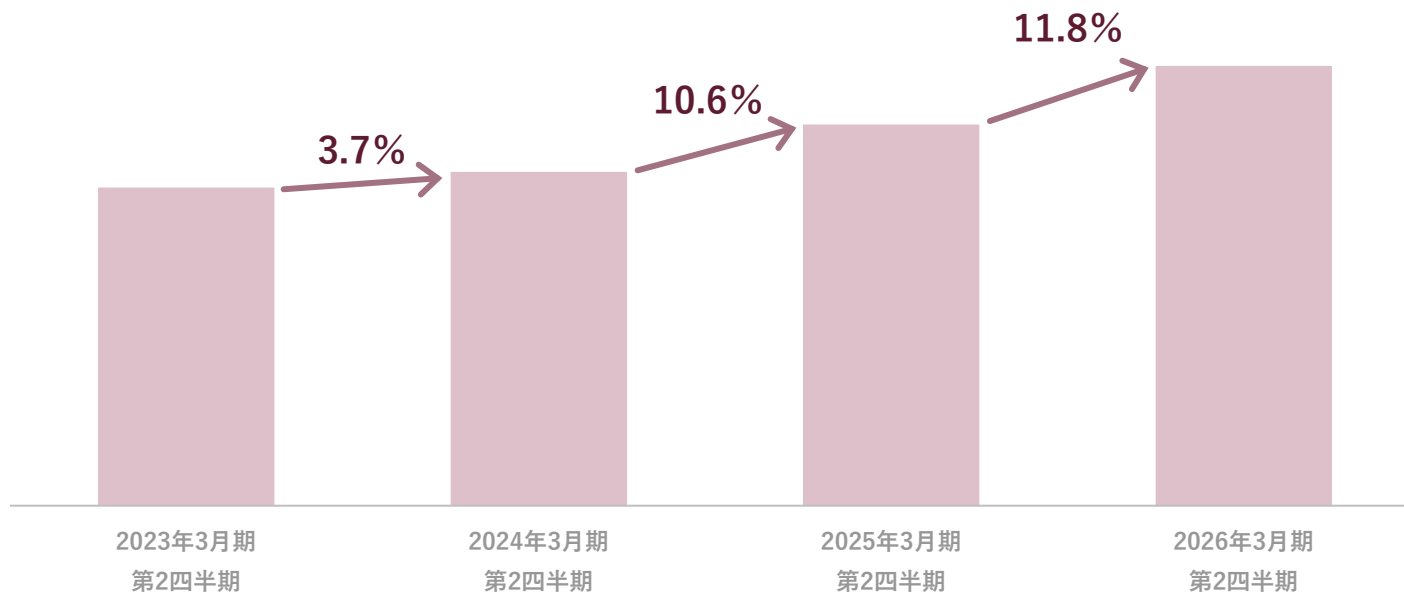


Ⅰ 既存取引先との更なる深耕を目指す

製造原価改善の取組み

不採算商品は削減
品目を絞り、売れ筋商品の改良と開発に集中

業務用食品粗利益推移（前年同期比）



■ デイリー菓子の定番化を目指す

■ 高付加価値商品の提供

デイリー菓子定番化のため取組み

品揃え強化

通年品

逸品どら焼き



どら焼き



どら焼き 栗



どら焼き 抹茶



どら焼き さつまいも



どら焼き れもん



季節品

菓子「新宿中村屋」浸透

ブランド力強化

！ 駅近の立地を活かしてインバウンド需要、来街者の取り込みを図る

インバウンド需要への取組み

多国語対応POP



Lemon pie
柠檬派
레몬파이

英語
中国語
韓国語



Financier
费南雪
피낭시에

新規顧客獲得への新たな取組み

手作り・できたて商品の提供



できたてサンド月餅



手焼き生どら焼き



(食のショッピングフロア)

- コンビニエンスストア向け中華まん和菓子25品目の価格改定を実施
- 今後も市況環境に対応した価格を維持

原材料の見直しや製造工程を改善し、商品改良及び製品価値向上を反映 価格改定や規格変更によりコストアップ分をカバー

実施時期	2025年8月	2025年9月
改定率 (想定価格)	+4～7%	+6～9%
対象商品	肉まん あんまん ピサまん 大入り肉まん  ふんわり×ごろっと肉まん もちもち×ずっしり大入り豚まん もちふわ×とろ～りピザまん ふわふわ×とろっと濃厚ごまあんまん	うすあわせ 月餅 こがねはずみなどの米菓の一部商品 

IRお問い合わせ先

広報・CSR部

TEL

03-5325-2733

E-mail

csr_ir@nakamuraya.co.jp

新宿中村屋

変わらない「おいしい」を、いつもあたらしく。

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、本資料の発表日、現在において入手可能な情報から得られた判断に基づいており、実際の業績は、様々な不確定要素により異なる場合がございますことをご了承ください。